

先生各位

## 検査内容変更のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、下記の項目におきまして、検査内容を変更させていただきますのでご案内申し上げます。  
今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

《変更日》 平成 22 年 1 月 4 日(月) 受付分より

《変更内容》

検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.101	3369 3370 3371	一般細菌薬剤感受性検査	検査方法	微量液体希釈法 (CLSI 準拠法)	ディスク拡散法 (CLSI 準拠法)

その他の検査内容に変更はございません。

ただし、淋菌につきましてはディスク拡散法による検査となります。

CLSI：米国臨床検査標準委員会 (Clinical and Laboratory Standards Institute)

《変更理由》 最小発育阻止濃度測定用自動機器導入に伴う測定原理の変更

《変更の詳細》

類似薬剤による結果報告

類似薬剤の概念(代表薬剤の測定結果はそのグループに所属する薬剤との結果に一定の相関がみられる)に基づき、代表薬剤による測定結果を引用してご依頼いただいた薬剤の検査結果としてご報告いたします。報告書の結果表記は従来通り S・I・R 及び\* となり、「\*」の解釈としましては、自然耐性(薬剤感受性検査をしなくても無効であることが判っている場合)や判定基準がない場合、および類似薬剤の概念からはずれ適応できない等、報告が不可能な場合となります。S・I・R 及び\* の報告基準につきましては「表 1. 薬剤感受性検査結果報告基準」、実測薬剤につきましては「資料 薬剤感受性検査標準測定薬剤及びファルコセット」をご参照ください。

表 1. 薬剤感受性検査結果報告基準

CLSI 基準	適応菌種 <sup>注1</sup>	結果表記	結果判定基準
あり	あり	S・I・R	代表薬剤の結果、または、代表薬剤の結果を元に、類似薬剤の概念に基づき報告。日本化学療法学会等の基準を適応する場合もある。
	なし		
なし	あり		代表薬剤に CLSI 基準が適応されていた場合に限り類似薬剤の概念に基づき報告。日本化学療法学会等の基準を適応する場合もある。
	なし	*	自然耐性、S・I・R の判定基準が設定されていない、類似薬剤の概念が適応できない。

## ファルコ薬剤セットの変更

原則としましては、測定薬剤の中から任意に選択していただきセット化することをお薦めしますが、当社のモデルセット（ファルコセット）を微量液体希釈法（CLSI 準拠法）での実施を前提として改訂し、すべて実測薬剤にて構成しておりますので、必要に応じてご利用いただけます。

なお、詳細は「資料 薬剤感受性検査標準測定薬剤及びファルコセット」をご参照ください。

### 常在菌の範囲の見直しと常在菌に対する薬剤感受性検査の廃止

常在菌に対しましては、基本的に抗菌薬治療の対象（除菌目的を除く）にならない可能性が高く、また常在菌に対して薬剤感受性検査結果をご報告することにより誤って投薬等の処置が行われる可能性もございます。これらの理由から、今回以下に示します材料と菌種の組み合わせが生じた場合は、原則的に薬剤感受性検査のご依頼があっても検査を実施しない運用に変更することにいたしました。ただし、『常在菌の感受性検査実施』のご指示をいただいた場合は従来通り検査を実施いたします。

#### 1) 呼吸器系材料（喀痰、口腔内粘液、咽頭粘液、鼻汁等）

-streptococcus（ -レンサ球菌）、 -streptococcus（ -レンサ球菌）、  
*Moraxella* sp.（ただし *Moraxella catarrhalis* を除く）、コアグラゼ陰性ブドウ球菌（CNS）<sup>注2</sup>

#### 2) 腸管系材料（糞便、直腸スワブ等）

腸内細菌科の菌（ただし、サルモネラ、赤痢菌、エルシニア、病原大腸菌は除く）、*Enterococcus* sp.

注1：最新「抗菌薬」一覧(国際化学療法学会 八木澤守正監修)に基づく「適応菌種」から承認の有無を引用。

注2：呼吸器材料由来のコアグラゼ陰性ブドウ球菌（CNS）については、従来は薬剤感受性検査実施対象としておりましたが、白血病の化学療法施行時等の重度免疫異常の症例を除き、抗菌薬療法の対象となる事例はほとんど無いことが知られております。従いまして、本菌が分離された場合は原則常在菌と判断させていただきます。なお、薬剤感受性検査が必要な場合はご依頼日より二週間菌株保管を行ないますので、今回薬剤感受性検査の廃止をご連絡させていただいている他の常在菌と同様に、『常在菌の感受性検査実施』を営業担当者までご指示ください。

資料 薬剤感受性検査標準測定薬剤及びファルコセット

薬剤			メチシリン 感受性ブドウ球菌	メチシリン 耐性ブドウ球菌	腸球菌	連鎖球菌	肺炎球菌	腸内細菌	緑膿菌	セパシア	マルトフィリア	アシネトバクター	<sup>1)</sup> ブドウ糖非発酵菌	インフルエンザ菌	ブランハメラ	淋菌	<sup>2)</sup> 腸管病原菌
系統名	一般名	略号															
ペニシリン	ペニシリンG	PCG	●	○	●	○	●									○	
	アンピシリン	ABPC	●	○	●	●	●	●						●			●
	アモキシシリン	AMPC					●										
	ピペラシリン	PIPC						○	●			●	●				
	アンピシリン/スルバクタム	ABPC/SBT	○	○	○												
	アモキシシリン/クラバン酸	AMPC/CVA	●	○				○							●	●	
	ピペラシリン/タゾバクタム	PIPC/TAZ						○	●			●	●	○			
オキサシリン	MPIPC	○	○														
セファロスポリン (経口)	セファクロル	CCL			○	○	○							○	○		
	セフジトレン	CDTR	●	○	●	●	●							○	●		
	セフジニル	CFDN	●	○	○	○	○							○	○		
	セフカペン	CFPN			●	●	●							●	●		
	セフボドキシム	CPDX			○	○								○	○	○	
	セフテラム	CFTM			○	○								○	○		
	セフィキシム	CFIX			○	○								○	○	●	
セファロスポリン (注射)	セファゾリン	CEZ	●	○				●									
	セフォチアム	CTM	○	○	○	○	○	●						○	○		
	セフォタキシム	CTX	○	○	○	○	○							○	○		
	セフトリアキソン	CTRX			●	●								●	○	●	
	セフトアジジム	CAZ						●	●	●	●	●	●				
	セフォジジム	CDZM														●	
	セフォバラゾン/スルバクタム	CPZ/SBT						○	○			○	○				
	セフェピム	CFPM	○	○				●	●	○	○	●	●	○	○		
	セフピロム	CPR	○	○				○	○			○	○				
セフォゾラン	CZOP	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○			
モノバクタム	アズトレオナム	AZT					○	●				○					
セファマイシン	セフメタゾール	CMZ	○	○			○										
オキサセフェム	フロモキシセフ	FMOX	○	○	○	○	●							○	○		
ペネム	ファロペネム	FRPM					○							○	○		
カルバペネム	イミペネム	IPM	●	○	○	○	●	○	●			●	●	○	○		
	メロペネム	MEPM	○	○	○	●	●	○	●	●		●	●	●	○		
テトラサイクリン	ミノサイクリン	MINO	●	●	●	○	○	○		●	●	●	●	○	○		●
	テトラサイクリン	TC				○	○							○	○	○	
マクロライド	エリスロマイシン	EM	●	●	○												
	クラリスロマイシン	CAM	○	○		●	●							●	●		
	アジスロマイシン	AZM				○	○							●	●		
	テリスロマイシン	TEL				○	○							○	○		
リンコマイシン	クリンダマイシン	CLDM	●	●		●	●										
アミノ配糖体	アミカシン	AMK	○	○				●	●			●	●				
	ゲンタマイシン	GM	●	●				●	●			●	●				
	トブラマイシン	TOB						○	○			○	○				
	アルベカシン	ABK	○	●													
	スペクチノマシ	SPCM														●	
ニューキノロン	レボフロキサシン	LVFX	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	モキシフロキサシン	MFLX				○	○							○	○		
	シプロフロキサシン	CPFX						○	●			○	○			○	○
サルファ剤	ST合剤	ST	●	●			○	●		●	●	●	●	○	○		●
グリコペプチド	バンコマイシン	VCM	○	●	●	○	●										
	テイコプラニン	TEIC	○	●	●												
オキサゾリジノン	リネゾリド	LZD	○	●	●												
その他	ホスホマイシン	FOM	●	●				○	○				○				●
	クロラムフェニコール	CP				○	○							○	○		
	リファンピシ	RFP	○	○	○												

・薬剤感受性標準測定セットは該当する菌群に対してわが国で汎用されている薬剤、および耐性因子を検出する上で必要な薬剤から抜粋しています。

・S・I・Rの判定基準は米国臨床検査標準化委員会（CLSI）基準、日本化学療法学会基準等を使用して行います。

・●：ファルコセット、○：ファルコセットに含まれない薬剤。ただし、ご依頼により実測薬剤として報告可能。

1) ブドウ糖非発酵菌：クリセオバクテリウム、アルカリゲネス等

2) 腸管病原菌：赤痢菌、サルモネラ、腸炎ビブリオ、病原大腸菌、腸チフス菌、パラチフス菌、コレラ菌等

・メチシリン耐性ブドウ球菌のβラクタム剤に対する薬効評価は米国臨床検査標準化委員会（CLSI）基準に基づき、全てのβラクタム剤はオキサシリンの感受性試験結果で判定いたします。

・表中に記号の記載の無い薬剤は、類似薬剤の概念に基づき代表薬剤（○または●の記載がある薬剤）による測定結果を引用してご依頼いただいた薬剤の検査結果としてご報告いたします。ただし、代表薬剤より抗菌力が劣る薬剤、あるいは耐性因子の影響で代表薬剤とは異なる感受性パターンを生じる場合がありますので、薬剤の使用の際はご注意ください。

・報告書の結果表記はS・I・Rおよび\*となります。\*の解釈は、自然耐性（薬剤感受性検査を実施しなくても無効である事が分かっている場合）や判定基準がない場合、および類似薬剤の概念からはずれ適応できない等、報告が不可能な場合となります。